

入学者のことば

入学者のことば

歯学科1年 池田 恵一朗



初夏に突入し暑い日々が増えてきた今日この頃、私たち新入生は新潟大学の学生として2か月が経ちました。一人暮らしや大学に慣れることに追われたあつという間な2か月でしたが、

とても密度の濃い時間を過ごしていると確信しています。たくさんの新しい友人や先輩、教授と出会いました。友人や先輩は実に様々なところから新潟に来ていて、地元では得られなかったような体験をしています。同級生は個性豊かな人たちが多くて一緒にいて飽きることがありません。先輩方は特に様々な価値観を持っていてそれを聞いているだけで勉強になります。私は男子校出身なのですが、とても楽しい学園生活を送ってきたので、高校の友達や先輩より楽しいと思える友人はいないだろうと思っていました。しかし今は高校の時より楽しくなるのではないかと考えています。そういう意味で一人暮らしというのは最高だと思います。掃除などの家事をするのは大変ですが何時に帰っても問題ないわけですから、友人と好きな時間まで遊ぶことができます。地元に戻りたいとは微塵も思いません。これからも一人暮らしを謳歌していきたいと思います。教授は優しい先生方ばかりで、とても恵まれたところに入校したと思っています。上級生になって受けられる講義が楽しみです。大島先生とは同じ高校出身だということが入学式後の懇談会でわかり、人とのご縁をひしひしと感じ大事にしていきたいと思いました。

このように、いかに自分が恵まれ幸せな時を過ごせているかを実感しています。これから6年間

長いようであつという間だと思えます。お金を出してくれている両親に感謝して、悔いの無いように時間をうまく使ってたくさんの経験をして有意義な6年間にしたいと思います。

拙い文章であります。これで入学生のことばとさせていただきます。

入学者のことば

口腔生命福祉学科1年 宮澤 帆乃花



もともとわたしは料理をすることが好きで、将来は食べることに関する仕事をしたいと考えていました。それだけでなく医療や福祉の分野にも興味があったので、歯科衛生士と社会

福祉士の両方を目指すことができる新潟大学歯学部口腔生命福祉学科の受験を決めました。

この学部の特徴である早期臨床実習では、治療の際に使用する道具の名称や使い方以外にも、患者さんとの接し方や歯科医師と歯科衛生士の仕事についてなど実際の現場でしか学べないことを学べるので、歯学に関する授業が少ない1年生にとって非常に貴重な機会だと考えています。1回1回の実習が常に新たな刺激となっています。

口腔生命福祉学科は20人という小規模な学科ではありますが、その分仲の良さはどの学部・どの学科にも負けないと思います。入学が決まったとき、新たな場で友達が出来るか不安でしたが、赤塚での宿泊研修や歯学部運動会などの行事を通じて仲良くなれました。全員女子の学科であるため、誰とでも気兼ねなく話せるところが私は好きです。先日初めて「口腔会」と称される女子会を開催しましたが、大盛況でした。次回の開催が今から非常に楽しみです。

また、私は医歯学合同の軟式テニス部に所属しています。中学でソフトテニスをしていただけで、大学では他のスポーツをしたいと考えていました。しかし、友達に誘われて一緒に見学に行ったとき、和気藹々とした部の雰囲気や優勝を目指してひたむきに努力する姿に惹かれて入部を決めました。優しく面白い先輩方や個性派勢揃いの同期とともに行う部活動はとても楽しいです。医歯学合同なので、さまざまな学科の人と交流できる点にも魅力を感じています。

率直に言うと、卒業後のビジョンはまだ明確には描けていません。だからこそ、これからの大学生活でいろいろなことを学び、4年後に後悔のない決断を下せていたらいいなと思います。

入学生の言葉

口腔生命福祉学科1年 春 山 海 帆



新潟大学歯学部口腔生命福祉学科に入学しました。これまでの人生にはなかったことをたくさん経験しています。

まずは、新潟での一人暮らしです。私は岩手県出身ですので、まったく知らない土地で生活していくのは不安でした。しかし、いざ始めてみると、目的地に行くことなどはもちろん、家事もしっかりこなせています。一人暮らしを始めて、自分はやればできるのかもしれないと思いました。また、自分の身の回りのことを積極的に手伝ってくれた家族への感謝の気持ちも確認することができました。

新潟大学歯学部の大きな特徴のひとつである、1年生での早期臨床実習も充実しています。大学病院内をユニフォームで歩いたり、患者さんや病院のスタッフの方々とコミュニケーションをとったりなどを授業で体験することができ、とてもうれしく思っています。また、治療中の作業を少しお手伝いさせていただくこともあります。まだ専門科目の授業は始まっていませんが、実習を通じて将来の仕事内容を知ることができます。それと

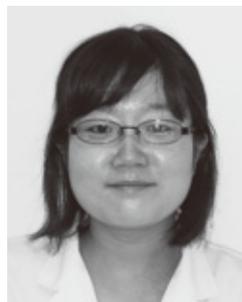
同時に、国家試験合格をめざし勉強に励む意欲も湧いてきます。

口腔生命福祉学科は、歯科衛生士と社会福祉士両方の資格取得を目指したカリキュラムとなっているため、幅広い知識が身につけられる学科だと感じています。とくに社会福祉士の仕事内容は多岐に及ぶと聞きます。だからこそ、私は実習以外の一般教養の講義も重要だと感じました。多様な知識を持つことは社会に出てからも強みですし、なによりも視野が広がっているという実感が湧くととてもうれしいです。新潟大学には多数の学部が揃っているので、所属する学部以外の分野も気軽に学ぶことができます。このような大学の長所を、自分の成長に役立てていきたいです。

数カ月の生活のなかで、「大学は人として大きく成長する場」だと思いました。これからも大学での経験から様々なものを吸収し、自分の理想に近づいていこうと思います。

入学者のことは

包括歯科補綴学分野 設 楽 仁 子



今年の4月に新潟大学大学院医歯学総合研究科の包括歯科補綴学分野へ入学し、早3ヶ月が経とうとしています。指導医の先生のもとで迷惑をかけながら、臨床や技工物の製作をする

毎日です。そもそも私は学生の頃は大学院進学について全く考えていませんでした。研修医時代に臨床に少しずつ携わっていくにつれ、今の自分が開業医でやっていけるのだろうか、それとももう少し大学で勉強しようかと悩むようになりました。先生方や先輩に相談し、大学院進学を決めましたが、どの科に入学するかをずっと迷っていました。ぎりぎりまで悩み、結局決断をしたのが大学院願書提出締切日当日でした。研修医で一番診療に関わったのが義歯でありもっと勉強したい、また、顎義歯もやってみたいと思ったのがきっかけでした。

大学院入学後は日本補綴学会と顎顔面補綴学会に参加させていただきました。今までほとんど学会に参加したことのなかったのでとても新鮮であり、貴重な体験でした。特に顎顔面補綴学会での質疑応答の時間は白熱があり、圧倒されていました。8月には顎口腔機能セミナーのサマーセミナーに参加します。他大学の大学院生とグループと徹夜しながら研究すると聞き、研究をしたことのない私はとても緊張していますが、他大学の院生との交流は楽しみです。学生時代、他大学生と交流してこなかったのでこの4年間は様々な大学の学生や職種の人と積極的に関わっていききたいなと思っています。

今後研究が加わるとさらに忙しい毎日になりますが、研究と臨床ともに頑張っていきたいと思えます。ぼんやりとしかどのような研究を行いたいかはみえていませんが…。4年間勉強させていただける機会を得たので後悔のないよう精進していきたいです。ご迷惑を多々おかけすると思えますが、先生方今後ともよろしくお願いいたします。

入学者のことば

歯科矯正学分野 市川佳弥

臨床研修終了後の進路に悩む先生は多いと思います。私も大学院進学か一般開業医への就職か悩んだ末、歯科矯正学分野への進学を決めました。

歯科矯正に興味を持ったのは自らが幼い頃に矯正治療を受けたことがきっかけです。治療前後の顔貌写真やエックス線写真を比較して、その変化



新人歓迎会にて指導医朝日藤先生（右）と。（筆者左）

に感銘を受けたことを今でも覚えています。大学は矯正歯科医になることを目標に歯学部へ入学しました。しかし、卒後1年間臨床研修を行っていく中で、矯正治療の必要性を実感するとともに、矯正治療のデメリットについても学び、疑問を持つこともありました。実際に自分で診療したことで一般歯科への興味も湧き、開業医へ就職することも考えましたが、大学院及び開業医の双方の先生方にお話を伺い、やはり1番興味のある歯科矯正をデメリットも含めてじっくり学びたいと考え、大学院へ進学することとしました。

入局当初は不安と緊張でいっぱいでしたが、医局の先生方は気さくで明るい方ばかりで、忙しくも楽しくあつという間に3ヵ月が過ぎました。この3ヵ月間は主に日中は先生方の診療の見学や講義、診療終了後は実技実習を行ってきました。恥ずかしながら初歩的な質問ばかりしていますが、どの先生も快く親身にご指導してくださり、素晴らしい先輩方に恵まれたと感じています。診療後には食事に連れて行っていただき、他愛のない話から矯正の話までしていただきます。そんな中で、矯正は奥が深く（どの分野もそうですが）、まだまだスタートラインにも立てていないのだと実感しました。

この先、たくさんの苦難が待ち受けていると思いますが、このような恵まれた環境で学ばせていただけること、ご指導して下さる先生方、応援してくれる家族への感謝を忘れずに大学院生活を送っていききたいと思います。

「入学者のことば」

口腔生命福祉学専攻 木村有子
博士後期課程



この度、口腔生命福祉学専攻博士後期課程に社会人入学致しました木村有子と申します。平成25年3月に口腔生命福祉学専攻博士前期課程を卒業いたしました。2年ぶりに新大に戻って参りました。どうぞ宜しくお願いいたします。

今回「入学者のことば」の執筆の依頼を頂きまして何を書こうかと迷いましたが、やはりこの歳（笑）で大学院で学ぶことになりました経緯をお話させていただきます。私は東京にある大学附属歯科病院に勤務して20数年になります。博士前期課程入学の際の動機としては、自分の母校である専門学校が廃校となり、なんとなく心の拠り所がなくなったと感じておりました。また、自分が今まで業務として経験してきたことを何にも形に残せてないな…とも感じておりました。歯科衛生士歴20年を目前にこの先の自分の歯科衛生士像が描けずにいたようです。そんな時に口腔生命福祉学科の非常勤講師としてお世話になっておりました福島先生や隅田先生に相談したところ、大学院の社会人入学という道があることを教えていただき、「論文を書いてみたい」という思いから門を叩くことになりました。ちょうど入学時期に職場の異動も重なり、大学院との両立は想像以上に目まぐるしい日々でした。なかなか論文が進まず先生方には多大なるご迷惑をお掛け致しましたが、何とか無事に卒業することができました。あれから2年が経過し、論文投稿・雑誌掲載も一段落したことから本年4月に博士後期課程に入学いたしました。後輩からは「あの苦しかった日々を忘れたのですか？」と驚かれましたが（笑）、博士前期課程を卒業し新たに母校や恩師が出来たこと、また当初の目標であった「論文が書けた」ことは私の中で少なからず自信に繋がっているようです。今年度新たに勤務先で「臨床教員」という役割を担うことになりました。博士前期課程で学んだこと、更に博士後期課程で学ぶことを糧に今後も臨床家として新米研究者として邁進して参りたいと思っております。

入学者のことば

口腔生命福祉学専攻 佐藤 茜
博士前期課程

4月より口腔生命福祉学専攻博士前期過程に入学しました佐藤茜です。私は、今年の3月に新潟大学歯学部口腔生命福祉学科を卒業しました。4

年間の思い出というものは数えきれなく、正直勉学に励んだというよりは、学校外での活動ばかりが中心の毎日でした。実習が終わると同時に走ってアルバイト先に向かい、稼いだお金を貯めて週末や長期休みには国内、海外様々なところへ出かけました。あまり勉強熱心な学生ではなかったかもしれませんが、とても楽しい4年間でした。そんな私が大学院に入学しようと思ったきっかけは、海外で働きたいと思ったからです。これからの将来を考えたとき、今のまま社会人になった自分の姿を想像し、純粋に面白くないなと思いました。そして知識も経験もない状態では、外国の歯科衛生士資格をとろうと思っても無謀であり、修士課程へ進み学びを深めることがその道につながるのではないかなと考えたからです。

現在、私は摂食嚥下リハビリテーション学分野の諸先生方のお世話になり、日々病棟で臨床経験を積みながら、勉学に励んでいます。最初は、自分の想像していた大学院生活とのギャップに戸惑うことが多く、このまま大学院での勉強をつづけるべきかどうか悩んだ時期もありました。しかし、今までの自分の甘さを反省しこれからの2年間は強い意志を持ち勉学に励みたいと考えています。臨床の場面では、自分の知識不足を痛感する日々が続いています。しかし、先生方の熱心なご指導もあり恵まれた環境の中で、少しずつではありますが成長を感じています。井上誠教授からは「2、3日寝ないで論文をよむ日があってもいい。泣くくらい勉強しろ。」とのお言葉をいただき、泣きたくないなあと思っているのが本音ではありますが、2年後に胸をはって卒業できるよう頑張りたいと思います。



（筆者右）